

令和6年度事業計画

学校法人武蔵野大学

1. はじめに

現代社会は、世界的な情報技術の進化やAIの急速な普及、国内の18歳人口減少や労働人口の高齢化等により、VUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）の時代と称され、先行きが不透明かつ将来の予測が困難な社会となっている。また、2022年初旬に発生したロシアによるウクライナ侵攻は、人道上の問題とともに、エネルギー価格の高騰など世界経済に甚大な影響を与えており、未だ収束が見えない状況下において、将来の予測を更に困難なものとしている。

こうした中、本法人はどのような状況下であっても、建学の精神「仏教の根本精神である四弘誓願を基礎とする人格教育」を基本理念に置き、本法人のブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」を具現化する人材育成に向けての歩みを進める。

2024年の創立100周年を迎えるにあたり、その先の100年を見据え、時代の要請に機動的に対応してデジタルトランスフォーメーション（以下「DX」という。）を推進し、教育研究の質を更に向上させ、教育研究活動を将来にわたり継続的に実施することで、世界や地域に貢献しながら本法人の社会的使命を力強く果たしていく。そのためには、学校法人としての経営の健全性と持続性が極めて重要である。

本法人は、2020年度に「第一次長期計画 -MU VISION 2030- [2020年度～2030年度]」及び「第一期中期計画 [2020～2024]」（以下「中長期計画」という。）を策定し、2022年度に第3回更新を実施した。さらに、2023年11月に「学校法人武蔵野大学グランドデザイン」を策定し、第一期中期計画の総括を行い、第二期中期計画の策定を進めている。令和6年度事業計画はグランドデザイン及び更新後の中長期計画の目標達成を視野に入れて、令和6年度に取り組む内容をまとめたものである。

2. 各学校等の教育方針

武蔵野大学・ 大学院	<p>① 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>武蔵野大学は、ブランドステートメント及び教育目的に定める人材を育成するため、授与する学位ごとに卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定めます。</p> <p>また、本学で学ぶすべての学生が、多様な人々のなかで「アクティブな知」を獲得し、創造的に思考・表現する力を備えて、世界の課題に立ち向かうため、以下の力を身につけることとし、各学科のディプロマ・ポリシーにて具体的な方針を示します。</p> <ol style="list-style-type: none">1 [知識・専門性]：学びの基礎力を基盤とした専門能力2 [関心・態度・人格]：他者と自己を理解し、自発的に踏み出す力3 [思考力・判断力]：課題を多角的に捉え、創造的に考える力4 [交感力・発信力]：多様な人々のなかで、自らの考えを表現・発信する力 <p>② 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>武蔵野大学は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる力を身につけるために、以下のように教育課程を編成します。</p> <p>初年次からの全学共通基礎課程「武蔵野 INITIAL」では、視野を広げること、スキルを身につけること、行動力を持つことを学ぶ科目群で、ディプロマ・ポリシーに示す1～4の力につながる学びの基礎力を養います。それを基盤として、学科科目では、専門能力を高めながら、世界の課題に立ち向かうために普遍的に求められる力を身につけられるように段階的、体</p>
---------------	---

	<p>系的な科目配置を行います。教育課程の実施にあたっては、「問う」「考動する」「カタチにする」「見つめ直す」という4つのステップを繰り返しながらともに学び、成長するという本学独自の学びのスタイル「響学スパイラル」の実践を通じて学びの効果を高めていきます。</p> <p>③ 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>武蔵野大学は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえた教育活動を実践するため、以下の者を受け入れます。</p> <p>【求める学生像】</p> <p>本学の建学の精神、教育目標を理解するとともに、育成する人材像に共感し、教育課程に積極的に取り組む姿勢を持つ者</p> <p>【受け入れる学生に期待する能力・態度】</p> <p>1 [知識・専門性] 各学科の教育を受けるのに必要な基礎知識を備えている</p> <p>2 [関心・態度・人格] 他者と自己を理解し、自発的に踏み出す意欲を持つ</p> <p>3 [思考力・判断力] 課題を多角的にとらえ、創造的に考える意欲を持つ</p> <p>4 [交感力・発信力] 多様な人々のなかで、自らを考え表現・発信する意欲を持つ</p> <p>【入学選抜の基本方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学部・研究科の教育目的に相応しい人材を多面的に審査・評価する ・ 基礎学力と専門教育に関係する教科の理解度、並びに人物の適性等について審査・評価する ・ 学力だけでは見出すことのできない能力や意欲、将来の可能性等を高校在学時の活動状況等から審査・評価する
<p>武蔵野大学中学校・高等学校</p>	<p>① 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「明るい知性」と「豊かな情操」とを兼ね備えた「聡明にして実行力のある人物」であること。 ・ 「人の幸せを願う心」「自己中心、自己絶対視を改める心」「正しい判断力」「良き社会人として通用する自立心」をもつ人物であること。 ・ 何事にも真摯に取り組み、社会の幸せを希求する教養溢れる自律した人物であること。 ・ 論理的思考力を身に付け、課題を正しく理解して解決を目指して挑戦できる人物であること。 <p>② 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科とも学びの基盤となる「知識と技能」を十分に習得できるように編成する。 ・ How に留まらず Why を重視する学びを実践、論理的思考力を育成する。 ・ 宗教教育を拠り所の一つとし、課題解決のための探究活動を実施する。 ・ 探究活動について、課外活動も積極的に実施する。

	<p>③ 入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校の教育を受けるに足る資質と能力が十分にある生徒。 ・ 人格形成のための六つの徳目「布施・持戒・忍辱・精進・禅定・知恵」の実践に共感する生徒。 ・ 常に挑戦し続け、変化を恐れず、社会貢献するために自立する気持ちのある生徒。
<p>千代田国際中学校・武蔵野大学附属千代田高等学院</p>	<p>① 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自他ともに心豊かに生きることの出来る社会の実現を希求する人物である。 ・ 真のオーナーシップとグローバル性を持つ人物である。 <p>② 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人生の目的（Purpose）を見つけるため、PBL/SBLの学習を通じて、Whyにこだわる学びを実践し、実社会で生きて働く知識の習得と活用を目指す。 ・ 多様性（Diversity）を重んじ、相手の考えを尊重できる真のコミュニケーション力を養う。そのために4技能を意識し、国際社会で通用する語学力を育成する。 ・ 挑戦（Challenge）を楽しみ、失敗から学び続ける姿勢を育成する。 ・ データを的確に読み、論理的に物事を考える姿勢を育成するため、ICTやAIを活用した最先端の学びを追求する。 <p>③ 入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チャレンジすることを楽しみ、世界に貢献しようとする姿勢を持つ人 ・ 相手を否定せず、多様性を認めることが出来る人 ・ なぜ学ぶのかという目的意識を持ち、高い学力と広い知識や教養を身に付けるために意欲的に取り組む人 ・ 本校の教育内容を理解し、入学後も勉学に励み、世界に貢献する姿勢を持つ人 ・ 様々な活動（生徒会活動、部活動、資格取得、課外活動）に積極的に参加し、入学後もそれらの活動の成果が期待できる人
<p>武蔵野大学附属幼稚園</p>	<p>① 教育目標</p> <p>「こころとからだを整え、生きる力を学ぶ」を教育目標に掲げ、仏教行事・伝統行事などを通じて、慈悲の心、利他の心を育み、すべてのいのちがつながりあっている世界の中で、感謝の思いで手を合わせる子どもを育てる。</p> <p>具体的活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感動し、想像し、表現する <p>豊かな自然や動物とのふれあいを通じて、「いのち」のつながりやすばらしさに気づき、「作る、壊す、工夫する」を繰り返しながら、想像力を育み、感じたことを自由に表現できる力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間とともに創り出し、育ちあう <p>思い切りからだを動かしながら、バランス感覚やしなやかな動きを身につ</p>

	<p>け、友達とのかかわりを通して互いの思いに気づき、人と共にいる喜びを感じ、ともに育ちあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好奇心を持ち、新しい世界を知り、未来の扉を開く <p>遊びや様々な体験を通して新しい世界に気づき、絵本に親しんだりお話を聞きながら豊かな言葉の世界を広げる。</p>
武蔵野大学附属有明こども園	<p>① 教育理念</p> <p>「響き合う保育」の教育理念の下、一人ひとりの個性を大切にしながら、子ども同士、子どもたちと保育者、保護者が互いに育ちあうことを目指す。具体的には以下の3つの取り組みをとおして、小学校からの教育課程に積極的に取り組む姿勢と、予測不可能な時代に必要な「生きる力」の基礎を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思う存分遊び込み、生きる力を身に付ける <p>自ら「遊び込む」ことで、ものの不思議さに気づき、好奇心・探究心を育む。また、楽しさや達成感を味わうことが自信につながり、“生きる力”の根源でもある自己肯定感を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本物に触れ、豊かな感性を育てる <p>武蔵野大学各学部と連携して、学内外の各分野の専門家による“わくわくプログラム”で本物に触れる体験を通して、豊かな感性を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仏の心を大切に <p>浄土真宗本願寺派の大学附属こども園として、生命の尊さに気づき、万物の恵みに感謝して手を合わせる、心優しい子どもを育てる。</p>

3. 各学校等及び法人の事業方針

武蔵野大学・大学院	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs17目標の達成に向けた全学的な取組の推進 ・Happiness Creatorを育成するための響学スパイラルの確立 ・Creativeな知をカタチにできる人材の輩出及びCreativeな実践者の育成のための環境の整備（教職員一体となったキャリア支援、ST比率の改善による教育力の向上等） ・Society5.0時代を踏まえたBYODを活かした響学スパイラル教育の全学推進 ・国際化ビジョンに基づく学部学科でのグローバル人材の育成と多様な学生のための環境とプラットフォームの整備運用 ・大学の枠を超えた各種連携の推進及び創立100周年を迎えるにあたり、卒業生との連携強化 ・新たな学部や研究科の設立に向けた準備 ・武蔵野大学入試戦略に基づく入試広報の強化及び学生の安定的な確保
-----------	---

<p>武蔵野大学中 学校・高等学 校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な進路の実現に向けた均一で質の高い授業・講習等の実施 ・生徒が主体となって取り組む行事やプログラムの充実 ・新しい図書館のあり方を踏まえた施設の整備 ・民間企業と連携した教育プログラム等の継続
<p>千代田国際中 学校・武蔵野 大学附属千代 田高等学院</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校との接続を踏まえた高校の教育課程変更 ・国際性豊かなマインドによる質の高い授業の提供 ・求める生徒像に沿った入学者確保のための学校運営 ・校舎の建て替えの検討
<p>武蔵野大学附 属幼稚園・ 慈光保育園</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者及び地域の方々の信頼度、満足度の向上と、募集を意識した講座やイベントの開催 ・社会のニーズに対応した正課の見直し ・園舎内部の改装、園庭遊具の更新整備等
<p>武蔵野大学附 属有明こども 園</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者及び地域の方々の信頼度、満足度の向上と、募集を意識した講座やイベントの開催 ・地域子育て支援プログラムなど募集に結びつく競争力のある教育の実施と成果の可視化 ・社会のニーズに対応した正課の見直し
<p>法人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神の普及に資する式典、行事、研修等の充実 ・私立学校法改正に対応する法人ガバナンスの改善・強化 ・第一期中期計画の総括と第二期中期計画の策定 ・創立100周年記念事業各プロジェクトの仕上げ ・法人広報戦略に基づく100周年記念事業を軸とした広報展開 ・スマートインテリジェンスキャンパス（SIC）プロジェクトの推進 ・「学校法人武蔵野大学DX推進基本計画」及び同施策詳細計画に基づく教育研究並びに法人業務のDX化の推進 ・長期人員計画に基づく足許の教職員マンパワーの確保 ・長期施設設備等整備計画に基づく、武蔵野中高図書館及び武蔵野キャンパス大学図書館の建替え計画の推進、並びに校舎等の施設・設備の改修・更新工事の実施

(1) 各学校等の取組

① 武蔵野大学・大学院

チャレンジ1 自己と世界を問う

- ・ SDGs17 目標の達成に向けて、全学的な取組みを推進する。具体的には、学科・研究科・研究所の17目標における教育研究課題の設定と解決に向けての取組を推進し、「武蔵野大学 SDGs 白書」を公表する。
- ・ 教育研究の質を高め、Happiness Creator を育成するため、響学スパイラルの確立を2022年度に開設した「武蔵野大学響学開発センター」を中心に推進する。

チャレンジ2 未来の世界を創る Creative な実践者の輩出

- ・ Creative な知をカタチにできる人材の輩出のため、教職員一体となったキャリア形成・就職支援を目指し、キャリアセンターによるキャリア支援の早期化を促進する。
- ・ 多様化する学生の進路に対応するため、キャリアセンターと各学科が連携し、全学的な支援スキームを構築する。起業家を含む官民幅広い分野での人材を輩出し、著名企業への就職率向上を推進する。
- ・ 各学科の特性に合わせた本学独自の ST 比改善の方策を通じて、多様性を尊重し学修者一人ひとりの学びのスタイルや能力に合わせた指導等を実践し、教育の質及び教育力の向上を図る。
- ・ Creative な実践者の育成に取り組むため、教員が研究に専念しやすい環境の整備（研究時間の確保・インフラ整備・事務サポート体制の充実等）を行い、研究力の向上を図る。
- ・ 改正された大学設置基準に基づき、基幹教員制度や特例制度等を活用し、本学の教育体制の効率化や活性化を図ることで、更なる教育改革の推進に努める。

チャレンジ3 AI 世界を先導する MUSIC

- ・ SI キャンパスビジョンに基づく、響学スパイラル教育・学習に適用できるよう、リノベーションした教室での授業実践を行う。
- ・ Society5.0 を踏まえた「響学スパイラル×BYOD」の学修イノベーション推進のため、BYOD 環境を活用した学科別の教育実践の普及を推進、各学科から響学スパイラルと BYOD の取組み状況に係る改善点の確認、教育 DX について検討を進める。
- ・ 情報・AI 教育のブランド化において、副専攻（AI 活用エキスパートコース）での学生の進路支援と共に、学科科目においてプログラミング系情報科目をゼミナール等の一部として実施する。

チャレンジ4 Global & Universal

- ・ 世界に羽ばたき、世界を迎え入れる学部学科でのグローバル人材の育成を目指す。
- ・ 海外留学の促進においては、各学科や協定校との連携を強化し、海外 FS やグローバル PBL の開発を実施する。他方、留学生の受け入れにおいては必要な支援の調査や環境の整備を推進する。
- ・ ユニバーサルなキャンパス空間と学生支援の推進のため、障害、ジェンダー、国籍等多様な立場の学生に寄り添うことのできるキャンパス環境構築のための調査等を行い、バリアフリーなキャンパス環境の構築に向けたキャンパス計画のガイドラインの作成とともに、包括的な学生支援とダイバーシティ推進のためのプラットフォームの整備を進める。

チャレンジ5 MU-GEN (Musashino University GENERations) につながる Infinite Linking

- ・ 創立 100 周年を迎えるにあたり、武蔵野サングの醸成のため、卒業生連絡先等の情報把握に努めるとともに、同窓会との連携を深める企画を推進する。また、「卒業生を訪ねるプロジェクト」への卒業生紹介など更に連携協働する。
- ・ 本学の教育研究リソースを活かし、インターネットラジオを開局し、大学の枠を超えた番組を配信する。
- ・ 本学の教育リソースを活かし、高校との連携プログラムを開発し、情報教育や各学科の教育を学外に展開する。

チャレンジ6 共に5つのチャレンジを実現する学生の安定的な確保

- ・ 武蔵野大学入試戦略について、具体的取り組みを実施する。
- ・ 入試広報として、学科の特色、本学を認知した受験生への継続性、受験学年以外（高2生以下）などを強化する。

② 武蔵野大学中学校・高等学校

- ・ 多様な進路の実現に向けた均一で質の高い授業・講習等の実施
- ・ 生徒が主体となって取り組む行事やプログラムの充実
- ・ 新しい図書館のあり方を踏まえた施設の整備
- ・ 民間企業と連携した教育プログラム等の継続
- ・ 増加し多様化する生徒に対応し得る学級運営力・授業力の強化、並びに教育施設の準備

③ 千代田国際中学校・武蔵野大学附属千代田高等学院

中学校と高等学校の教育的接続のために、高等学校の教育課程の変更に着手する。教員の授業力と協働性の向上のために、更なる授業研究や研修を進め、教育スキルを高め、国際性豊かなマインドを全教職員が身につける。校舎の建替えについては、法人全体の施設整備計画に従い、現在の校舎の修繕計画などを再検討しながらも、充実した教育環境整備を図る。

④ 武蔵野大学附属幼稚園・慈光保育園

- ・ 保護者及び地域の方々の信頼度、満足度の向上と、募集を意識した講座やイベントの開催
- ・ 社会のニーズに対応した正課の見直し
- ・ 園舎内部の改装、園庭遊具の更新整備等

⑤ 武蔵野大学附属有明こども園

- ・ 地域ごとの園児募集結果の分析を基に、安定した園児募集の基盤を構築
- ・ うさぎ組、こあら組、またその他の未就園児向け、保護者向けの地域支援プログラムや施設開放等を拡充し、地域とのつながりを強化
- ・ 社会のニーズに対応した正課の見直し

(2) 法人の取組

法人の絶えざる改革と安定した成長・発展を支える「法人ガバナンスの改善・強化」及び「内部統制の整備」に引き続き取り組み、令和7年4月に施行される私立学校法改正に対応する。併せて、改革と発展の原動力として「法人・教学のDX化」及び「創立100周年記念事業10のプロジェクト」を軸に、以下を重点として取り組む。

- ・ 建学の精神の普及に資する式典、行事、研修等を引き続き充実させていく。
- ・ ガバナンス改善・強化及びコンプライアンス遵守に組織的に対応するため規程の整備を進める。
- ・ 最終年度を迎える第一期中期計画を総括し、第一次長期計画に照らして、取り巻く環境の変化への対応を盛り込んだ新たなチャレンジに向け第二期中期計画を策定する。
- ・ 2022年4月に導入した職員の新人事制度に合わせ、職員の活性化と育成のため、新研修プログラム及び人事評価手法を開発し、人事制度、研修、人事評価が一体となる仕組みを構築する。
- ・ 教職員の人事計画に基づき積極的に人員確保を進める。
- ・ 2024年の創立100周年記念事業の各プロジェクト等を着実に遂行する。
- ・ 法人広報戦略に基づき、創立100周年記念事業の情報発信を軸として積極的な内外広報を展開し、認知度及びブランド力の向上、並びに法人内各部署における広報意識の醸成に取り組む。
- ・ 「学校法人武蔵野大学 DX 推進基本計画」及び同基本計画を実現するための施策詳細5年計画に基づき、教育研究のDX化、法人業務のDX化及び創立100周年記念事業であるスマートインテリジェンスキャンパス（S I C）プロジェクトの各計画を推進する。
- ・ 長期施設整備計画に基づき、武蔵野キャンパスでは、新大学図書館の設計・デザインを固め、武蔵野中高図書館は基本設計に基づき新図書館の建築工事を開始する。有明キャンパスでは、教室増設のため施設内装の改修を検討し、千代田キャンパスでは、新館の教室等の改修を実施するとともに長期的な施設活用を検討する。
- ・ 財政の安定化に向けたバランスのとれた予算の編成と執行、新たな収入源の確保及び積極的な募金活動により、財政基盤の強化に努める。
- ・ 安心安全を見据えた災害及び事故に起因する危機管理力を向上させるため、システムトラブル時の対応力を強化し、継続的に全学的なBCPを見直す。

4. 各学校等及び法人の事業計画

[武蔵野大学・大学院]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和6(2024)年度事業計画	
チャレンジ1	自己と世界を問う	SDGsの17目標に向けての全学的な取組の推進	SDGsの17目標に向けての全学的な取組を通じた建学の精神の具現化			4～8月 資料収集 9月 制作開始 3月 発表	
			学科・研究科・研究所の17目標における教育研究課題の設定と解決に向けての取組	○	武蔵野大学SDGs白書	検証内容をふまえ、「年次報告書」を発展させた「SDGs白書」を発表	
			国内外の研究機関との連携深化と国際的な交流活動の拡大		国際的シンポジウムの参加研究者数	1月に第9回しあわせ研究所シンポジウム、3月にTHE WELL-BEING WEEKを開催	
					幸せ、SDGsに関する共同研究数	4月上旬 研究費募集開始 5月下旬 査定・研究費配布 しあわせ研究所研究費委員会による適切な審査及び執行管理、研究成果の確認を行い、適切かつ効果的な研究費執行が行われているかを確認	
				「世界は幸せか」という問いから始まる学修の仕組み構築	○	Happiness Creator目標の設定（授業レベルの教育改善）	・令和5年度検証内容を踏まえ、10月～3月に令和5年前期授業リフレクション結果等を基にした新カリキュラムの総括（4年次卒業研究等） ・大学DXに係るSRM導入と連動してHappiness Creatorの設定
				Happiness Creatorを育成するための武蔵野メソッド（響学スパイラル）の開発		響学スパイラル取組授業数	・響学スパイラルを活用した授業改善に対する取り組みのインセンティブの設定（授業改善小委員会） 10月～11月：授業改善トライアル公募
				全学部学科・研究科におけるFDの徹底を通じてのアクティブラーニング、反転授業、ICT活用等による授業改善	○	学科・研究科FD実施率	・各学科にて響学スパイラル等に関する学科FDを実施してもらい、年度末に取りまとめを実施
						アクティブラーニング等に関する目的別FD開催件数	・アクティブラーニング等に関する学内外の先駆的な実践者、研究者を講師としたFDの企画・開催
				自己の生き方を問いつつHappiness Creatorとして歩む志、能力の確立		1科目当たりの予復習時間	・令和5年度検証内容を踏まえ、10月～3月に令和6年度前期授業リフレクション結果等を基にした学科FDを実施 ・各アンケート調査・アセスメントでの検証 ・学部等運営会議での検証
				生涯学び続ける学習基盤の確立		予復習時間6時間以上の学生割合	・令和5年度検証内容を踏まえ、11～12月に学生生活実態調査を実施、集計を行い、2月に教育改革推進会議及び学部長会議にて報告 ・学部等運営会議での検証
						授業理解度	・令和5年度検証内容を踏まえ、10月～3月に令和6年度前期授業リフレクション結果等を基にした学科FDを実施 ・各アンケート調査・アセスメントでの検証 ・学部等運営会議での検証
						授業主体的取組	・令和5年度検証内容を踏まえ、10月～3月に令和6年度前期授業リフレクション結果等を基にした学科FDを実施 ・各アンケート調査・アセスメントでの検証 ・学部等運営会議での検証
				入学前・初年次教育による武蔵野の学びへのスムーズな移行		退学率	・入学前・初年次教育の再構築、各学科における検証（円滑な高大接続に質する初年次学科科目の新設等）

[武蔵野大学・大学院]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和6(2024)年度事業計画	
チャレンジ2	未来の世界を創るcreativeな実践者の輩出	学修者本位のカリキュラムの構築と教育力の向上	共通基礎課程必修単位数を低減し、学びの目的に応じた選択科目を配置		2021年度未来共創プログラムの完成（学科（カリキュラム）レベルの教育改善）	令和7年度改善するカリキュラムの決裁を得ると共に、実施準備を完了	
					2021入学者のDP2	2021年度入学生の卒業時のDP2を測定	
			メインメジャーとサブメジャーとの融合的カリキュラムに合わせた学内組織の改編	○	サブメジャーの開講コース数	開講済の1コース（情報）に加え、令和5年度に新規2コースの設置を検討済み。令和6年度は、体制等実現可能性の観点から新規設置コース数は1コース（仏教）とし、全2コース（情報、仏教）の運営	
			教育研究の質を高めるための教員評価の導入とSD研修の充実	○	教員評価プログラム	前年度の方法をブラッシュアップした2024年度版「MU SDGs Best Teacher Award」を実施	
				ST比率の戦略的な学科別見直しによる改善		大学ST比率	教員人事計画に基づき採用を行うとともに、ST比が適切かどうかを検証
		未来の世界を担うcreativeな知をカタチにできる人材の輩出	自己の関心事や専門分野と社会とのつながりを体感する学外学修の推進	○	学科教員企画FSプログラム数	新規の基礎FSと発展FS開講拡充のため、9月に学内にて新規プログラムを募集 円安や原油高の影響を受けにくく、学生が参加しやすいアジア近隣の低価格の海外プログラムを推進	
			学修成果をカタチにする手法（ライティング、プレゼン等）を支援するセンターの設置（上位層引き上げ・補習体制整備）	○	DP3、4	CLS(クリエイティブ・ラーニングスクエア)の認知度向上に加え、展示スペースの利用数増加及びライティングサポートの実施・利用促進により、交流の活性化を目指す	
			アントレプレナーシップ学部の設置と起業家の輩出		起業数	起業に必要な能力を養う場として、起業学生等によるイベントの開催	
			目的やニーズに応じ、個々人の環境や特性を活かした学び方を可能とする多様な学修プロセスの構築	○	学科のDP到達を示す成果物	各学科の学びを活かした成果にもとづくキャリアデザイン科目の単位取得及びキャリアラボへの参加（全学科からの参加・学部学科・学年を超えた交流）	
			官民幅広い分野での人材輩出		公務員上級職	キャリアセンターが開講する2年次開講公務員試験対策講座開始 学部横断情報提供量20%増、業務説明会の参加者20%増	
			教職員一体となったキャリア形成・就職支援（アドバイザー教員の主体的指導の支援体制拡充）		○	「大学通信」指定400社就職 【参考指標】上場企業（400社）への就職及び卒業時アンケート調査の進路先満足度の定点観測	全学的なキャリア教育と連動した学科の特徴に合った就職支援 学科教員による学生面談を通じた細かい学生情報の把握、キャリアセンター支援課による情報提供や就職協働によるイベント・講座の実施など学科別の就職支援
						キャリアセンター	キャリアセンター運営委員会で、第一期中期計画の振り返りを行い、第二期中期計画に向けたキャリアセンター運営方針、基本計画を策定し、キャリアセンターとしての就職キャリア支援体制を確立

[武蔵野大学・大学院]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和6(2024)年度事業計画
チャレンジ2	未来の世界を創るcreativeな実践者の輩出	社会の変化を包摂する専門的知見に基づく解を提示する研究力の向上	社会の要請に応え、高度化する専門知に対応する大学院研究科の設置		大学院研究科の設置の検討案を提案する。	研究科の定員充足及び充実に向け、必要に応じた学部等運営会議での検証
			大学院研究科の研究指導体制の再確認(D・P・C・P・論文審査等基準の見直し、FDの推進)	○	改善策の実施	教員の退職等の影響を踏まえた指導体制の見直し 6月：教育改革推進会議にて今年度の充足状況報告 11月：教育改革推進会議にて次年度の充足見込報告
			外部資金による研究費の獲得	○	科研費件数総額	・専任教員の適切な授業負担の検証 ・専任教員の研究時間の確保のための学科事務要員等の雇用 ・科研費応募者等へのインセンティブ付与
					奨学寄附件数総額	・専任教員の適切な授業負担の検証 ・研究シーズ集の更新(随時募集・定期的な募集案内) ・研究クラウドファンディングの運用(随時募集・定期的な募集案内)
					受託研究件数総額	・専任教員の適切な授業負担の検証 ・研究シーズ集の更新(随時募集・定期的な募集案内) ・専任教員の研究時間の確保のための学科事務要員等の雇用
		社会の変化を包摂する専門的知見に基づく解を提示する研究力の向上	査読付き論文の実績のある教員の割合	・専任教員の適切な授業負担の検証 ・有料版AI翻訳ソフト導入に向けた具体的提案		
			研究活動の支援と研究成果発表の促進	・専任教員の適切な授業負担の検証 ・サバティカル制度の活性化のための制度見直しの検証 ・基幹教員制度の導入に伴うクロスアポイントメント制度活用方針の検討		
			研究費予算の戦略的配分	・専任教員の適切な授業負担の検証 ・研究シーズ集の更新(随時募集・定期的な募集案内) ・専任教員の研究時間の確保のための学科事務要員等の雇用		
			大学間・産官学間の研究活動強化	○ 大学間・産官学間提携事業数	・専任教員の適切な授業負担の検証 ・研究シーズ集の更新(随時募集・定期的な募集案内) ・専任教員の研究時間の確保のための学科事務要員等の雇用 ・海外との共同研究や国際シンポジウムの実施に対する支援策の実行	
チャレンジ3	AI世界を先導するMUSIC	情報教育・学習環境の整備	教室環境のスマート化(プロジェクタ・ディスプレイの計画的な最新化)	○	教育(環境)の情報化装備率	有明キャンパスAV機器リブレース 大学院自習室のPCの半数のリブレース サステナビリティ学科PJTルームのPCのリブレース
			教室定員に対する無線LANセッション数及び電源の確保	○	・教室のデジタル化率 ・共有空間のBYOD完備率 ・ストレスフリーな無線環境達成率	国際的相互利用可能なローミングサービスeduroamを有明キャンパス・武蔵野キャンパスに令和7年3月までに導入
			LMSの確立とAIサービスの導入	○	・教育現場での響学スバイラル等の新しい学修スタイルの試みを支援するスマートサービスセンターの設置	(1)協調学習や個別最適学習等の支援を行うICT/AIサービスの検討および試行 (2)授業におけるオンラインチューターの取り組み事例を紀要および学会発表等で内部および外部発信
			学生commons等共有スペースの整備	○		SI教室の増設検討、PoC推進

[武蔵野大学・大学院]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和6(2024)年度事業計画	
チャレンジ3	AI世界を先導するMUSIC	教育の情報・スマート化	BYODを活かした響学スパイラル教育の全学推進	○	BYODを活かした響学スパイラル教育実践率	MUSIC計画推進小委員会にて、BYOD環境を活用した学科別の教育実践の普及を推進。	
			LMS、AIサービス、動画コンテンツ等を活かした教育の実践	○	LMS活用率の向上による教育のスマート化の促進	(1)MUSICでの次世代LMSやAIサービス等の検討 (2)響学スパイラルの実践の発信	
		AI-Ready-Universityを目指した情報・AI教育のブランド化	MUSIC発次世代型情報・AI教育の全学展開とサブメジャー化	(A)1学年あたりのコース修了率(令和5年度以降) (B)情報基盤科目の履修率	○	(A)1学年あたりのコース修了率(令和5年度以降) (B)情報基盤科目の履修率	(1)AI副専攻申込者を増やすための広報、離脱者を防ぐためのフォローアップ (2)履修証明(デジタルバッジ)の発行
				文系学部生の成長産業分野(情報分野等)への就職率		文系学部生の成長産業分野(情報分野等)への就職率	(1)継続的なMUSICとキャリアセンターとの連携取組みの実施 (2)AI副専攻修了者の就職支援
		専門科目での専門領域とAI・情報分野の融合科目		専門科目での専門領域とAI・情報分野の融合科目	学科科目におけるプログラミング系のゼミナール等の実施		
チャレンジ4	Global & Universal	世界に羽ばたき、世界を迎え入れる学部学科でのグローバル人材育成	協定・認定留学等の留学制度等の推進(海外渡航型)	○	①海外経験比率 ②海外学科FSを有している学科数 ③海外FS(語学研修等含む)参加学生数 ④グローバルPBL	①海外経験比率の向上に向けて ・留学フェア、ニュースレターの発行、SNSツールを活用し、留学関連情報を発信 ・日本学生支援機構・海外留学支援制度やErasmus+の申請などにより、(長期)留学を促進 ・APAIE、EAIEなどへの参加、海外協定校との繋がりを深め、欧米の交換留学先を確保 ②③学生のニーズを踏まえた新規プログラムの開発と既存プログラムの募集枠拡大による学科FS数及び参加学生数の増加推進及び引き続き積極的な広報活動実施 ④令和5年度までの施行結果を踏まえ、学生ニーズと費用面で実現可能なプログラム開発	
			オンライン型海外研修プログラムの充実化とその支援		・プログラム数 ・参加学生数	短期語学研修は、海外大学のオンラインプログラムの提供が著しく減少したことと、学生の要望にかなうオンラインプログラムを大学で提供することは困難であるため、オンラインは単独のプログラムではなく、渡航型プログラムを効果的にするために組み合わせる形や、サブコンテンツとして活用していくことを検討	
		留学生支援に取り組み、その広報を通じて優秀で多様な留学生獲得	○	・留学生比率 ・留学生出身国	・留学生支援の充実を図るため、令和6年度内に留学生主体の多様な文化・言語の紹介プログラムを新規実施 ・地域小中学校及び地域NPOとの交流促進(前年度比増) ・学友会クラブの「国際交流会」への運営支援(前年度比企画増) ・パディ制度及び留学生交流イベントの充実、留学生アンケートの継続 ・留学生の入学理由より本学の魅力を分析 ・大学ホームページの英語化推進及びSNSでの発信		

[武蔵野大学・大学院]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和6(2024)年度事業計画	
チャレンジ4	Global & Universal	国内授業における外国語科目の強化	第二外国語科目の充実		多様な第二外国語を2年次まで学ぶ学生数	R5年度に引き続き、動画による意義周知等を行うとともに、履修に影響を与える時間割を改善	
			SDGs専門科目等外国語で修了できる科目・コースの設置		外国語で行われている講座数	(International Lectures)新規開講学科の安定実施及び、さらなる新規学科の獲得に向け学科のニーズに対応する多様な実施形態の整備	
		ユニバーサルなキャンパス空間と学生支援	キャンパスをバリアフリーな空間として創造	○	・キャンパス再整備 ・第二期中期計画の計画立案		<ul style="list-style-type: none"> ・第二期中期計画指針の完成 ・Diversity Equity & Inclusion(※)を推進する組織の検討 ・Diversity Equity & Inclusion(※)の啓発に活用するハンドブック等の作成 ・キャンパス調査報告書及びガイドラインの作成 ※ Diversity Equity & Inclusionとは、すべての人が差別なく多様性が尊重され、多様な活動におけるあらゆるプロセスに人それぞれの特性に合った参加の機会を担保し、持続可能な組織や社会を築く考え方
		ユニバーサルなキャンパス空間と学生支援	教職員のユニバーサル化			女性教員比率	誰もが働きやすい大学を目指した具体的な環境整備の検討及び提案 1. 女性教職員を対象としたZOOMによる茶話会を月1回継続実施 2. 女性教職員を対象とした対面による茶話会を有明キャンパスで実施(軽飲食付き) 3. ジェンダーバランスを考えるフォーラムを開催 4. R4年度調査の結果を踏まえた実現可能性の高い取り組みを(試行的に)実施
						若手教員比率	・誰もが働きやすい大学を目指した具体的な環境整備の検討及び提案 ・定年の厳格化による若手教員の雇用の促進
				障害者学修支援と多様な学生サポート	○	卒業時アンケート満足度	卒業時アンケートの満足度の目標数値達成のため、以下の計画を実行 ①学生支援のためのワンストップ窓口とするための運用検討・満足度調査の実施 ②ボランティアセンターの安定運営及びセンター主催イベントの実施

[武蔵野大学・大学院]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和6(2024)年度事業計画	
チャレンジ5	MU-GENIにつながるInfinite Linking	大学の枠を超えてつながる新設プラットフォーム(オンライン+リアル)を活用した各種連携(中高大接続、地域連携、通信教育、大学間・産官学連携、卒業生との連携)	学生(中高大)、卒業生、大学、企業、地域が参画する大学の枠を超えたプラットフォーム(オンライン+リアル)の新設		MUプラットフォーム(MUPF)の開発 卒業時アンケート推奨度	・武蔵野大学インターネットラジオ安定稼働開始、遂行 ・アーカイブ化の他大等情報収集結果を踏まえ本学でのアーカイブ化企画具体化 ・卒業生の利用する施設について、インターネットラジオの収録場所との併用等の可能性を踏まえ、具体的な施設確保を展開	
			本学の教育コンテンツを活用した中高大接続		国内外の中高生との連携	・高大接続小委員会が定めた実施方針に基づき、新たな連携対象校と新規プログラムを実施	
			本学進学者及びIR情報を用いた高大接続		本学進学者輩出高校への相互フィードバック	・高大接続小委員会が定めた実施方針に基づき、当該高校から本学へ進学した学生の紹介資料を作成し、高校訪問等で活用	
			MUSICによる教育プログラムを通じた高大接続	○	THE大学ランキング日本版教育充実度(高校教員の評判向上)	・「情報教育」をテーマとした大学教員・高校教員合同の勉強会第2回目を企画・開催	
			地域ニーズを把握し、生涯学習講座等を活用した地域連携		生涯学習講座の参加者数、満足度	社会響創センターでの検討を踏まえ、ニーズを見極めつつ新たな講座を試行	
			研究所等講座の参加者数、満足度、見える化		・大学HPにおいて各研究所・センターごとに年間計画を公開するよう、調整・実施 ・公開講座等におけるアンケートの実施による満足度調査の実施		
			通信教育部での学修機会の拡大による卒業生を含めた学生確保	○	スクーリングのオンライン(ハイフレックス=対面+オンライン)化	遠隔受講のニーズに応えるために、SICプロジェクトにおいて、動画サーバーの切り替えについて整備計画を確定併せて、収録するための簡易的なスタジオ設備の設置の必要性について、全学的な施設整備計画の中で検討	
			通信教育部の学修者本位のCPへの見直し(学部、大学院)	○	改善策の実施	成績確定のタイミングに合わせて授業アンケートを案内することで回収率を向上R8以降のシステム更新に向けて、必要な機能を整理	
			卒業生ニーズを把握し、通信教育部、生涯学習講座等を活用した卒業生支援		卒業生通信教育部入学者数	通信教育部での学びについて、通学課程・通信課程双方の卒業年次生に対して、チラシ等を配布して周知 志願者総数の回復を目指すため、HPの刷新やSRMの稼働と併せて広報計画を再検討	
			武蔵野サンガの醸成(卒業生・退職者・在学生・教職員・後援会の連携)	100周年記念事業を契機とした同窓会組織の活性化と、卒業後の継続的な情報接触を通じた関係性の強化		職域&企業内等同窓会数	むらさき会支部活動への協力支援及び情報発信 むらさき会員とのoViceの利用検討、展開
						卒業生把握率(現住所などを把握して連絡が取れる卒業生/女子大時代を含む全卒業生)	同窓会の主体的な活動への支援及び情報更新の依頼などの情報発信の実施 卒業生自身による情報更新機能の周知 むらさき会と連携した支部等の同窓会の活動などのWebサイトでの広報展開随時実施
						OBOG訪問可能者数	100周年イベント等による周知、依頼 求人navi進路決定届の浸透による協力者拡大 在学生の訪問利用促進(卒業時協力者増につなげる)

[武蔵野大学・大学院]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和6(2024)年度事業計画
チャレンジ6	共に5つのチャレンジを実現する学生の安定的な確保	武蔵野大学のビジョンの社会的認知と共鳴する優秀な人材の確保	入学定員を満たす入学者の確保(学部)		入学者数、定員充足率	・学校法人武蔵野大学入試戦略基本方針に基づき、入試検討委員会で審議決定する入学者確保計画に沿って、志願者状況によって適宜修正を加え目標を達成
			大学院研究科の定員管理徹底(入学者の確保又は定員の削減)	○	収容定員に対する在籍学生比率	・学科・研究科と連携し、学内推薦者数増に向けた取組及び広報を強化
			入学者に占める本学第一志望比率増		新入生アンケート(回収率要向上)	・入試検討委員会において、令和5年度入試広報計画の検証を行い、必要に応じて見直しを検討 ・大学案内パンフレットやWebサイトに、学科ごとに学生の成長ストーリーを掲載 ・オープンキャンパスの学科企画を充実するため、教員を対象とした好事例の共有や研修を計画
			実志願者数の確保 18歳人口減対応(2020年117万人、2024年106万人 1割減)		実績値	・入試検討委員会において、令和5年度入試広報計画の検証を行い、必要に応じて見直しを検討 ・同一法人校、龍谷総合学園系列校からの進学を促進 ・国内留学生、海外直渡日生への広報強化
			入試施策(出口から入試の合格基準を考える)		学科毎基準作成(一般就職系学科)	・入試検討委員会において、出題委員の体制や入試問題の検証を行い、必要に応じて見直しを検討
		Society 5.0時代のニーズに即応した学部学科等の新設再編	建学の精神、アフターコロナの社会変化、ICTを用いた学び方の変革等を見通したニーズの把握		学部学科等の再編	・特色を明確にし、訴求力のあるカリキュラム、教員人事を実現する新学部等の設置準備(通信教育を含む)
		社会的評価指標の向上	THE大学ランキング等の社会的指標向上策のモニタリング		THE大学ランキング日本版順位	・高校教員を対象とした情報教育のワークショップの実施拡大 ・新たなターゲット校への高大接続プログラムの実施
		社会に輩出する学生数の減耗の極小化	社会環境の変化に対応できる学生支援体制の強化		組織改組	・学内奨学金見直し検討委員会にて奨学金制度の定期検証を行い、必要に応じて見直しを検討 ・障害のある学生への合理的配慮の法的義務化に伴い、対応委員会を設置し、学内支援体制を確立

[武蔵野大学中学校・高等学校]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和6(2024)年度事業計画
1	<p>附属校としての役割を果たしながらも、グローバル・サイエンス教育の充実をはかり、21世紀において先進的な教育・学校事例を社会に提供し続けるリーディングスクールとして変革し続けていく</p>	<p>真なるグローバル人財育成のためのシステムの構築</p>	<p>コースの再編と具体的なカリキュラムの構築</p>		<p>新コースの認知活動(生徒募集活動にて)</p>	<p>ホームページを活用し、各種イベントや入試説明会情報に加えて、学校や生徒の活動の様子を周知し、広報</p>
			<p>海外トップ大学への進学ノウハウの蓄積</p>		<p>勉強会の開催</p>	<p>各コース長と海外入試のエッセイ・ライティング指導研修</p>
			<p>国公立・最難関私立への指導強化</p>		<p>研修会及び見学会の開催</p>	<p>進路指導研究の実施 進路指導部員、及び各コース長を中心に進路研究を実施</p>
			<p>英語四技能への対応と各種試験の研究</p>	○	<p>TOEFL60点以上または英検準1級以上</p>	<p>補助金を活用した4技能の英検受験の推奨と実施</p>
			<p>各授業の品質と大学進学指導力の向上</p>		<p>研修会及び見学会の開催</p>	<p>教務部の体制整備 研修会の実施(教務データに基づく指導方法の確立)</p>
			<p>短期・長期留学制度の充実と海外留学生の受け入れ促進</p>		<p>制度の見直し</p>	<p>保護者、生徒対象の留学説明会の実施</p>
			<p>校内行事の整理・削減と一貫性の構築</p>		<p>時代の流れを受けた教育効果の実践</p>	<p>恒例行事の教育効果の検証と再検討 新規行事の効果検証と恒例化への検討</p>
		<p>サイエンスを身につけるためのシステムの構築</p>	<p>理数系教科の指導力の向上</p>	○	<p>外部コンテスト参加</p>	<p>外部コンテスト参加 各コンテスト募集状況 教職員間の周知体制の構築</p>
			<p>外部企業との連携</p>		<p>最先端コンテンツの導入</p>	<p>外部企業と連携し、最先端のコンテンツを導入した授業を実施、並びにその効果検証を行う</p>
			<p>外部学力テスト結果の分析及び授業での検証</p>		<p>勉強会の開催(職員会議での共有)</p>	<p>勉強会の開催(職員会議で共有)</p>
			<p>学級運営力・授業力向上に向けての各種研修会への参加</p>		<p>参加の奨励</p>	<p>①授業評価アンケート実施 ②教科研修会の実施 ③外部研修会の参加推奨</p>
			<p>21世紀型学力のためのハード・ソフトの構築</p>		<p>研究(外部メディアからの取材)</p>	<p>整備済みハード・ソフト等の使用状況や成績等の変化を分析し、検証</p>
			<p>最難関大学への指導ができる体制づくり</p>		<p>チームの構築</p>	<p>前年度のEX部の活動の振り返り、並びに活動内容の再検討 改修後の進路指導室の活用、並びに進路指導部と各コース長による新たな指導体制の構築</p>
			<p>ICT教育を含む継続的な学習環境の整備</p>		<p>整備計画の立案</p>	<p>ICT関連備品整備(故障時対応用ipad購入)</p>

[武蔵野大学中学校・高等学校]

区分	第一次 長期計画	第一期 中期計画	2020年度～2024年度 事業計画	重点 計画	指標	令和6(2024)年度 事業計画
2	目的達成のために必要な教育コンテンツ・スキーム・人財の開発・育成を進め、確実なアウトカムを出し、実践の頒布を行う	教員が改革推進に対して一致団結して取り組む体制の確立	人員配置の整理と機動力の向上	○	働き方改革と千代田との協力体制の確立 (人事交流) (教員・生徒の満足度調査)	教員の働きやすさに結びつけるため、教員ヒアリングを実施するとともに生徒の満足度調査を実施
			クラスター型組織による複数の次世代リーダーの育成		若手教員によるプロジェクト	人材育成をかねて、若年教員層でプロジェクトを運営
			学外広報の強化による志願者増		広報活動の強化	HP情報の整理と充実 集客分析
			改革を推進し入学者の増加を達成し収入の増加と収支の均衡を図る		教員の財務意識の向上	教員間にて入試説明会の集客状況を適宜共有し当該年度の状況、動向を把握。入試説明会やその他のイベントの教員の積極参加により、生徒募集に対する意識向上を促し、入学定員の充足を促進。
3	学祖高楠順次郎先生が目指された、「社会に貢献する人材の育成」という原点に立ち返る	「世界の幸福とは何なのか」を考え続けるために必要なシステムの設計を行う	社会に貢献する人材になるためのオリジナル教育の開発		開発作業	「言語活動」を中心にまとめた学校独自科目の教材を活用し授業を実施、検証し、オリジナル教育の完成を目指す

[千代田国際中学校・武蔵野大学附属千代田高等学院]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和6(2024)年度事業計画
1	前身である千代田女学園設立者の島地黙雷先生が目指された「国際教養人の育成」に立ち返り、国内外の難関大学への進学を保証していく	国内難関大学・海外大学への合格力を高める	コースの再編と具体的なカリキュラムの構築	○	コースの統廃合に伴う教育課程の変更	令和7年度入学生に適用する高等学校の新教育課程、コースの決定
			海外トップ大学への進学ノウハウの蓄積		勉強会の開催	TOEFL対策の授業を英語科主体で実施 英語科教員に加え、英語科教員以外も8月に実施されるグローバルキャンプに2名参加
			国公立・最難関私立への指導強化		研修会及び見学会の開催	全教科、予備校の教員対象授業セミナーへの参加 大学入試に向けた外部の講演会の実施
			各授業の品質と大学進学指導力の向上		研修会及び見学会の開催	相互の授業見学の体制整備 授業内容(教科指導)と評価が一体となったシラバスを作成 進学実績向上に向けた教科指導力UP
			チームで進路指導を行う体制づくり		体制づくり(進学実績の向上)	外部のキャリアカウンセラー等に講演の依頼や、研修への参加 進路指導室の改修
			入試制度の研究と個別最適化の模索		研究と実践(学力推移の検証)	進路指導部を中心とした進路指導体制の構築 学内での研修計画の作成と実施
		想像力と教養力の育成	世界を見据えた教材の選定とテストの抜本的な見直し	○	全統模試偏差値(3教科)	教科の授業研究・セミナー実施と、授業での指導への反映と振り返りの実施
			短期・長期留学制度の充実と海外留学生の受け入れ促進		制度の見直し	生徒の個々の学びに応じた、教育支援(奨学金等)の制度整備
			教員の教養力の強化		研究と実践	目標達成シートと振り返りに基づいた人事計画 年度当初、年度末、長期休業期間中に教員研修を実施
			外部企業等との連携		最先端コンテンツの導入	充実したプログラムを実現するために連携先を選定するとともに、本校の教員でも実施できるためのノウハウを蓄積
2	目的達成のために必要な教育コンテンツ・スキーム・人財の開発・育成を進め、確実なアウトカムを出し、実践の頒布を行う	教員が改革推進に対して一致団結して取り組む体制の確立	クラスター型組織による複数の次世代リーダーの育成		若手教員によるプロジェクト	若手教員を中心とした研修や、企画運営の充実
			学外広報の強化による志願者増		広報活動の強化	集客分析に基づいた効果的な広報 定員充足に向けて、本校の教育内容の充足と発信
3	学祖高楠順次郎先生が目指された、「社会に貢献する人材の育成」という原点に立ち返る	「世界の幸福とは何なのか」を考え続けるために必要なシステムの設計を行う	社会に貢献する人材になるためのオリジナル教育の開発		開発作業	本校教員で実施できる教員研修の冊子の完成
4	法人全体ベースでの組織マネジメントの構築	法人統合後の実効的な組織運営とガバナンス体制の強化	事務室業務の整理(法人業務と設置校業務)と法人への移管		設置校業務の適正化(規程の整備)	法人業務と設置校業務の業務整理と完全移管

[武蔵野大学附属幼稚園・慈光保育園]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和6(2024)年度事業計画
1	園児が健やかに成長できる教育環境を整備する	目標を具現化した競争力のある教育を企画・実施して、園児を成長させる	園児と保護者の満足度が高まる教育の質の向上を目指す		保護者保育参加の参観日 教員研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育方針のさらなる浸透 ・教員研修の実施(建学の精神涵養研修等) ・園児の送迎方法多様化 ・正課の見直し及び新規プログラムの導入(大学連携プログラム、体操、自然体験プログラム、ICT活用教育) ・劣化したおもちゃの更新(年次計画) ・大学との連携による保育の質向上(大学連携プログラムの実施) ・架け橋期を意識した近隣小学校との交流促進 ・保護者のボランティア活動との連携 ・「保育ドキュメンテーション」の導入
			園児が健やかに成長できる教育環境の整備	○	魅力ある遊具の更新設置	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都環境整備補助金を活用し、複合遊具施設を更新(年次計画) ・旧園舎保育室設備等の改修(年次計画)(天井クロス、入口扉、トイレブース、トイレ床、照明) ・沼田ホール天窓清掃
			地域子育て支援への貢献	○	育児相談の実施 子育て応援講座開催	<ul style="list-style-type: none"> ・育児相談の対象者を園児の保護者限定から、未就園児など地域の子育て世代の支援を行うこととし、保育園とタイアップして広報活動を展開 ・保護者から高評価の子育て応援講座については継続開催するとともに、大学教員を講師とすることで、大学と連携 ・幼稚園の知名度向上に繋がる広報活動を展開
2	企業内保育所の円滑な運営	きめ細かい保育を企画・実施して、園児を成長させる	園児と保護者の満足度が高まる保育の質の向上を目指す		育児について保護者との勉強会を開く	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会及び面談を通して信頼関係を構築し、保護者の満足度を向上させる ・職員研修の実施によるスキルアップ
			園児が健やかに成長できる保育環境の整備	○	幼児専用砂場設置	<ul style="list-style-type: none"> ・園児の発達に合わせた手作りおもちゃの充実 ・衛生機器及び老朽化備品等を必要な範囲で更新
			地域子育て支援への貢献		幼稚園とタイアップした育児相談の実施・子育て応援講座の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・育児相談の対象者を園児の保護者から、地域の子育て世代の支援に拡大して広報活動を展開 ・保護者から高評価の子育て応援講座については継続開催するとともに、本学大学教員を講師とすることで、大学と連携 ・幼稚園の知名度向上に繋がる広報活動を展開
3	入園者の確保	保護者も満足できる教育の実施	入園応募者の増加	○	入園定員確保	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園入試Webシステムの安定稼働 ・オープンスクール実施回数増 ・園パンフレットの全面見直し ・預り保育の内容見直し ・保護者ニーズに対応した課外活動の見直し ・未就園児クラス「にこにこルーム」の内容及び情報発信の充実 ・ホームページの充実による広報活動拡大

[武蔵野大学附属有明こども園]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和6(2024)年度事業計画
1	大学の様々な学部と連携し園独自のカリキュラムを構築することによる円滑で安定した運営	園児と保護者の満足度が高まる教育・保育の質の向上を目指しつつ、円滑で安定した運営を行う	園内外の研修や教育学部幼児教育学科との共同研究等を通して、教職員の指導力の向上を目指す	○	キャリアアップ研修修了者率 (保育教諭数31名)	園児の安全に関する園内研修は非常勤職員も含めて共通理解ができるよう情報を共有 特別研修費制度を活用し、職員全体の教育力・保育力を底上げ 中堅職員を中心にキャリアアップ研修受講を推奨
			発達障害児等の障害者受入体制の整備 ・江東区からの幹旋児1名に付き担任とは別に非常勤1名配置 ・幹旋以外の園児をどの程度受け入れるか検討と体制づくり		障害のある園児	療育通所園児についてはこども発達センターと連携して園児と保護者を支援 また、非常勤職員を多く募集し加配として申請し支援を充実
		園児が自発的に遊び込み、生きる力を身につけられるよう、わくわくプログラムを実施するなど、教育・保育環境を充実する	様々な学部と連携し、園児が多方面に亘る事象に興味を持ち、視野を広げていける環境の整備	○	わくわくプログラムの年間実施回数	わくわくプログラムは内容や実施頻度を年齢に合わせて、担当教員と調整し、質を向上 これまでの実施プログラムを検証し、次の5年間にどういったプログラムを実施するべきか再検討
2	子育てを中心に様々な情報を発信し地域に根付いた園にする	地域に開かれた施設として、地域子育て支援プログラムを通し、こどもの健全育成及び子育て世代の家庭の支援を図る	地域の子育ての拠点となれるよう子育てに関する講習会や絵本の読み聞かせ会等の充実	○	地域子育て支援プログラム年間実施回数	・子育て支援プログラムは概ね好評であることから、地域の子育てに貢献できるようプログラムの拡充 ・一時保育は人員を確保して週2日以上の開室を整備 ・小学校との連携では『幼保小架け橋プログラム』を基に区の研修を通して課題への共通の認識を持ったり、地域の小学校や保育施設と協力して小1プログラム軽減に貢献

[法人]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和6(2024)年度事業計画
1	仏教精神の再確認と共有	仏教精神の普及	「建学の精神」である仏教精神の学内外への普及に資する式典、行事、研修、講演会の充実	○	①日曜講演会の参加者数	現状のメールや新聞折り込みチラシも含め、広報活動を充実 有明開催を築地での開催も視野に入れて検討
					②法人内の各学校等の関係強化	各校独自の活動継続を尊重した、意見交換等を推進し、関係を強化
					③大学礼拝の参加者数	武蔵野/有明両キャンパスでの対面開催 動画配信の併用は撮影・編集スタッフ等の関係からDX戦略企画課の協力により実施 大学礼拝実施について前後授業に影響が出ないように、開催方法やスタッフの増員を検討
					④仏教ボランティアの参加者数	コロナ禍の終息に基づき、築地本願寺、東京教区内各寺院の地域の青少年活動を担う方、及び大谷派寺院へも仏教ボランティア学生派遣を案内
					⑤各種仏教行事の充実	100周年の当年にあたり、学院行事を含む各法要等も通常の行事と違い関係する課も多いと想定されるため、連携をいっそう密にし、そつない実施
					⑥職員研修の参加率	継続して動画配信研修と新任職員研修として実地研修（雪頂忌墓参、築地参拝）を実施
2	ガバナンスの構築と執行体制の強化	ガバナンス構築	学長・校長・園長を中心とした全学院の執行体制の強化	○	①関係規程の整備	私立学校法改正等の法改正を見据え、規程の見直しを行い、必要であれば規程の改正を検討
			ガバナンス・コードの実質化		②規程等に基づく運営	規程の制定・改廃からシステムへの反映に至るまでのスケジュールやフローの検証
3	組織の活性化と職場環境改善の推進	人事・組織の活性化	スピード感ある業務執行と確実に効率的な業務を実現する組織の確立	○	①事務組織の改編	管理職への登用及び部署別の最適人数の把握による人員配置を実施
					②事務組織の改正	各部署の人員体制調査の実施
			働き方改革の推進による帰属意識の向上	○	①テレワーク規程の改正	令和5年度に実施したテレワークを検証し、令和6年度以降に向けて検討された運用方法での実施または廃止
					②残業の削減	中長期計画に基づく職員数の確保、管理職への労務管理の徹底及び法令遵守の周知及び新たなテレワーク勤務制度により残業時間を削減
			人事に関する計画（人材確保、人材育成、評価、適正配置、人件費見積り等）	○	①職員研修計画の策定・実施	令和5年度で新研修制度の導入を開始し、令和6年度中に全ての研修受講が可能になるように整備
					②職員資格制度の導入と給与制度の見直し	人事課DXの一環として、人事システムを導入し、正しい資格制度の運用ができていないか、システムで確認できる体制を構築
	③評価制度の検証・見直し	人事課DXの一環として、評価の積み上げ及び多面評価の導入に向け、コンサルティング会社を通じてシステム業者を選定し、導入				
	全学院のコンプライアンス及びハラスメント対策推進と行動規範に基づく倫理の徹底	○	①ハラスメント規程の改正・研修実施	ハラスメント相談員向けの研修を検討 法改正を見据えた規程の見直し		
			②行動規範の改訂・周知	行動規範の随時見直し		

[法人]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和6(2024)年度事業計画
4	ブランディング 広報の強化	戦略的広報計画 の策定・展開	全学的連携を視野に入 れた広報の充実	○	①リクルート・進学 ブランド力調査	入試広報、100周年事業と連携した効果的な施策の 実施
					②日経BPコンサル ティング 大学ブラン ド・イメージ調査 大学認知率	【取組1】 5月に大学、法人サイトを公開予定 新入生限定サイト、通信教育部サイトのリニューアルに 着手し、年度内にすべてのリニューアルが完了見込み 通信、SIC、広報の連携する仕組みを構築 【取組2】 2025年度以降のブランドメッセージ・広報戦略を検討
					③プレスリリース	発信件数を維持しつつ、よりパブリシティに繋がる内容 の精査、成功事例の共有、各学部・部署へのリリース作 成啓蒙活動、設置各校からの情報収集
5	創立100周年記念 事業の成功と、 次の100年への長 期的パースペク ティブ	100周年記念事業 の企画推進とブラン ディング	100周年記念事業の推 進	○	【PJ1】スマートイ ンテリジェントキャン パス開設	「DX推進による本法人の現在価値の向上や新たな価値 創出」の中で展開
					【PJ2】学生参加型 イベント	・学院歌等音源の再収録、CD及びメイキング動画の制 作 ・制作したスクールソングを活用するためのWSを実施 ・卒業生を訪ねるPJでの卒業生取材、取材記事作成、 新旧団体対談の実施、メイキング動画制作 ・令和6年度100周年記念コンテストの実施、100周年記 念アワードをメタバース空間で実施
					【PJ3】記念式典/ 講演会/記念祝賀会	・講演会については、講演者と調整後、令和5年度内に プログラム決定、令和6年度は具体的実施に向けて準備 ・式典・法要・祝賀会については、日程が確定次第、場 所の確保、プログラム確定、実施準備
					【PJ4】100年史記 念編集	・執筆活動完了及び編集作業の本格化
					【PJ5】高楠学祖関 連書籍の発刊・映像 制作	関係者と協力して企画を策定し実施・開催
					【PJ6】学祖記念国 際センター開設	・バーチャルミュージアムの開設と運用、SICとの連携 ・学祖に関する資料のデジタルデータの作成 ・100周年記念事業の成果物、研究所・学部学科等の成 果物の収集 ・データセンソリウムの開発
					【PJ7】記念碑の設 置、募財者刻名	・創立記念日までに築地本願寺内に記念碑を設置
					【PJ8】(学術)論 文・作文コンクール	・受賞作品を電子書籍に収録し、ホームページ上で公開 ・受賞者を周年事業記念式典で表彰し、賞金・記念品等 を贈呈
					【PJ9】文化・芸 術・研究成果の発信	・能楽イベント開催に向けて本準備の実施 ・6/29能楽イベントの実施 ・公演のアーカイブ化検討及び準備
					【PJ10】100周年事 業広報	・広報コンサルティング会社との定例ミーティング により、広報戦略・KPIの設定、響創指標の定点観 測と指標上昇を目指した施策の実施 ・広報戦略に基づく広報計画・広告計画の立案と実 行 ・100周年記念サイトのコンテンツ充実 ・100周年に向けた機運を高める法人内広報
	募財目標額：20億円	創立100周年記念募財活動に注力				

[法人]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和6(2024)年度事業計画
6	卒業生の組織化とロイヤリティ向上による大学価値の最大化	卒業生(同窓会)の組織化・機能化	校友会連合会(仮称)の創設	○	①校友会連合会(仮称)総会開催[2020]	次期中期計画の見直しに向けて、むらさき会支部活動への協力支援及び情報発信、むらさき会員とのofficeの利用検討、展開を実施
					②企業内同窓会	次期中期計画の見直しに向けて、卒業時の就職先情報を収集及び転職等の情報収集の情報集積
					③職域同窓会	次期中期計画の見直しに向けて、DBでの卒業生自身による情報更新を含めた、卒業時の就職先情報を収集及び転職等の情報収集の情報集積
					④海外同窓会	次期中期計画の見直しに向けて、国内の同窓会支部活動への協力支援の優先対応
					⑤会員DBシステム稼働[2021]	むらさき会、くれない会会員情報の安定的な運用運用における問題点の洗い出しと改善対応
					⑥連合会HP開設[2021]	引き続き卒業生への取材を進めるとともに在学生の活躍についても記事化を実施
7	財政基盤の強化	経営指標に基づく財政の安定化	経営指標に基づくバランスのとれた予算の構築と執行	○	財政分岐点指標の順守	・完成年度を迎えた学部については収支が均衡する予算の構築と執行を実施 ・財政分岐点指標の許容水準をクリアした財政計画を策定
			各種収入源の継続的な模索と確保		補助金・外部資金の獲得	・安全性を担保しつつ積極的な資金運用活動を推進 ・資産の一部について一任勘定による運用を開始
			ステークホルダーに対する募財システムの構築と募財の推進		寄付金額	創立100周年記念募財活動に注力
		【大学】経営指標に基づく財政の安定化	中長期事業計画を踏まえた経営指標(大学)の見直し	新経営指標	・経常収支差額比率、人件費比率等、他大学と比較可能な予算策定のための指標により、経営状況を把握	
			Best・Normal・Worst各収支シナリオに基づく弾力的な経営(収入減少時の支出抑制策)	中長期財政計画・事業活動収支	・収入面では学生数動向等を把握の上、実態に基づく試算、支出面は厳格な執行管理を実施 ・7月に効果的な予算の配分となるよう補正予算を実施	
		借入金・リース等外部負債を抑えた設備投資	自己資本比率	・資産と負債の状況を精査し、ガイドポストを意識した資金調達を実施		

[法人]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和6(2024)年度事業計画	
7	財政基盤の強化	【武蔵野中高】 経営指標に基づく 財政の安定化	単年度収支の継続的な 黒字化の達成		財務指標に基づく予算・決算	・経常収支差額比率、人件費比率等、他校と比較可能な予算策定のための指標を策定し、経営状況を把握	
			千代田高等学院を含む、 中高財政基盤の健全化		財務指標に基づく予算・決算	・ガイドポストを順守した財政計画を策定	
		【武蔵野中高】 経営指標に基づく 財政の安定化	東京都下の12歳・15歳 人口(20%)減を想定した 経営計画の見直し		中高経営計画の策定	ホームページを活用し、各種イベントや入試説明会情報に加えて、学校や生徒の活動の様子を周知し、広報	
			任意団体(部活動・紫 紅会、学年費、感謝献 金)のネットバンキン グサービスを活用した 管理		資金管理の適正化	学年費支出の適正化 正確な管理体制の構築	
			高校校舎・中学校舎の 建替えを想定した2号 基本金の組入、募財計 画。		第2号基本金への組 入率	・基本金組入計画どおり組入れ ・創立100周年記念募金活動の継続による寄付金の増強	
		【千代田中高】 経営指標に基づく 財政の安定化	教学(総コマ数)と法人 (経営)の整合性のある 人件費管理の実現		人件費比率 教職員定数(客観的 必要数) (給与規程の改正)	コースの整理に伴う教員数の見直しを実施	
			予算執行の適正化		執行率 教管比率	費目見直しの継続及び事業の効果検証による予算の適正配分	
			学校管理資金(感謝献 金・部費等)のバンキ ングサービス利用		決算報告	契約した新規システムの活用による徴収管理及び収支管理の実施	
			持続性を担保するた めの堅実な学校会計の 実行		特定資産への組入率 第2号基本金組入率	・財政状況を見ながら基本金組入計画を策定	
		8	危機管理体制の 確保	危機管理マニ ュアルに基づく 危機管理体制の確 保	感染症対策を含めた危 機管理マニュアルの更 新	○	危機管理マニュアル の更新
災害等発生時に迅速・ 柔軟に対応するための 危機管理体制の見直し	○				事業継続計画 (BCP)策定	更新の必要性が発生した場合は、1ヶ月以内に更新版を作成し、学内へ共有を実施	
災害対応力の強 化と危機管理力 の向上	安心安全を見据えた災 害対応力の強化と危機 管理力の向上				○	①自衛消防計画・組 織の見直し	・組織変更や各班ごとの人員配分、キャンパスごとの現状に照らした継続的な計画見直しを実施 ・キャンパスごとに防火防災対策委員会を開催し、訓練実施、備蓄品整備、消防計画の諸事項について検討、実施
					○	②避難訓練等の実施	・各キャンパスの状況に則した避難訓練を実施
						③避難所計画の策定	・BCP災害編を更新
						④備蓄品の整備	・追加及び更新が必要な備蓄品を継続的に整備

[法人]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和6(2024)年度事業計画
9	教育研究基盤を強化する施設マネジメント	【大学】 増加する学生と進化する授業形態に向けた教育環境の整備・構築	MUSICヘルプデスクによるLMSの活用支援		各キャンパスに支援体制構築	・継続して窓口業務を委託 ・ヘルプデスクWEBサイトの充実、チャットボットの機能拡張を実施
			MUSICの機能を拡充する適正なソフトウェア・機器類の確保		授業評価学生満足度	・Microsoft365、GoogleWorkspace等を教員・学生にアカウントを提供 ・Zoomアカウントを教員に提供 ・一部学生にVPN環境を提供 ・統計ソフトウェアSPSSを継続展開
		【大学】 経年劣化の進む施設設備の整備	武蔵野キャンパス施設設備機器の更新		施設設備更新計画達成率	・夏季休業中に5・6号館の空調設備を更新 ・夏季休業中に7号館屋上・外壁工事を実施 ・年末の法定停電時に8号館受変電設備を更新
			施設設備機器に関する法令順守（建築基準法、ビル管法、消防法等）		施設設備更新計画達成率	・前年度指摘事項があった場合は是正対応を年度内に実施
		【武蔵野中高】 増加する生徒・教員と進化する授業形態に対応する教育環境の整備	進路指導室・自習室・ICT環境等の充実、特別教室等の改修、第二体育館・駐輪場・職員室・講師室の整備等		完工、納品	・9月に駐輪場付体育施設を開設
		【武蔵野中高】 経年劣化の進む施設設備の整備	高校校舎の大規模修繕、中高図書館の建替更新、音響設備更新、応接室及び音楽室の環境整備等		完工	・中高受変電設備・高圧ケーブル更新 ・駐輪場付体育施設・図書館の完工 ・エレベーター更新工事
		【千代田中高】 老朽化建物の具体的な計画立案と実行	大講堂及び本館の建替、聞思堂の補修等		完工	・視聴覚室椅子改修、新館東側給水設備更新
		【千代田中高】 教育環境の整備	売店・ラウンジの設置、ARC用ICT機器の充実、男子更衣室・部室の増設、机・椅子の整備、中学校教室の改修工事（フューチャールーム）等		完工、納品	・中学校教室のICT機器更新
【こども園】 開設後必要となった設備の整備	プール用簡易温水シャワー設置及び園庭の改修・再整備		開園当初のコンディションを維持する	・インターホン増設工事を実施		

[法人]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和6(2024)年度事業計画
10	DX推進による本法人の現在価値の向上や新たな価値創出	【法人・設置校】データとデジタル技術を活用した経営及び運営の高度化による他法人との差別化	(1) データ等の客観的根拠に基づく経営及び運営判断、広報戦略及び募集戦略の立案 (2) 人材育成等の実施とシステムを活用した危機管理体制の整備や国際的交流の活性化	○	令和4年度中にマスタープランを策定予定のため、令和5年度に指標を更新予定。	(1)DX推進基本計画詳細に記載の以下事業を実施 ①学修ジャーニーの導入検討 ②教務システムの刷新検討 ③学修管理システムの検討 ④電子教材作成・利用促進のための環境整備 ⑤データ・ICT活用教育実践を促進するヘルプデスクの設置 ⑥オープンバッジの活用促進 ⑦MUスマホアプリの検討 ⑧学生の手続き電子化 ⑨研究費処理の電子化 ⑩事務業務の効率化 (2) 教員ICTリテラシー向上の事業を、令和5年度に引き続き実施
			(1) 交流・響創の場の提供	○	・メタバースキャンパスの設立 ・適用現場と適用パターン	・外部広報実施(HP、メタバースキャンパス導線公開) ・本格導入に向け運用及びサービス企画決定
		【大学】スマートインテリジェンスキャンパス開設	(2) MUオープンコースウェアサービスの提供	○	・MUデジタルラーニングサービスプラットフォームの構築 ・オープンバッジの発行	・YouTube等WEBサービスを用いて、通信制に係るプロモーション動画、日曜講演会等外部公開、また、学内教職員向け一部ガイダンスと大学礼拝の格納及び公開 ・授業配信動画システム選定、構築及び動画作成 ・通信制におけるオープンバッジ発行対象決定(通学制、中高等もニーズに応じ発行)
			(3) 学修コンシェルジュサービスの提供		・ワンストップAIコールセンターの構築	・通信制において問い合わせ一次受け担当窓口の設置、SRMに対応履歴等をデータ蓄積する体制整備 ・学修コンシェルジュサービスのアドバイザー組織化、SRM及び生成AIを用いたアドバイス方法の確立、トレーニング
			(4) ステークホルダー関係性醸成のシステム導入		・入試広報及び受験見込等入学前段階での構築	・通信制、通学制、生涯学習の入学前候補者に対する分析、マーケティング活動実行 ・通信制における在学中のSRM構築
			(5) 新学生ポータル提供		・コミュニケーションポータルの構築	・運用確定、トライアル
		【大学】スマートインテリジェンスキャンパス開設	(6) SIC施策の効果を高めるための活動		・SIC取り組み状況の報告 ・メディア事業(通信制、リカレント教育、生涯教育、日本語教育)に関するHPの導線改善	・外部広報実施(HP、メタバースキャンパス導線公開) ・入試広報用大学HP開発
			【法人・設置校】各設置校及び法人のDX推進を支えるインフラ等整備	(1) 情報システム体制強化 (2) デジタル人材育成強化 (3) ネットワークインフラの強化 (4) データベース構築・整備 (5) 情報ガバナンス・セキュリティの強化に向けたマスタープランの策定と推進	○	令和4年度中にマスタープランを策定予定のため、令和5年度に指標を更新予定。